ANNUAL REVIEW

2025年度 年次報告書

2025年1月1日～12月31日

一般社団法人

バードライフ・インターナショナル東京

CONTENTS

■代表のメッセージ 2

■About BirdLife International 3

■環境保全活動

・生態系の保全（SITES）..... 5

・種の保全（SPECIES） 7

・調査・研究（SYSTEMS） 9

・地域コミュニティ支援（SOCIETY）..... 10

■広がる支援の輪（FUNDRAISING） 11

■みなさまからのご支援 13

■収支報告 14

Greetings from the Director

代表のメッセージ

バードライフ・インターナショナル東京（以下、バードライフ東京）は、2002年の設立以来、生態系や種、森林、海洋の保全に加え、地域の人々の暮らしの向上や環境教育を通じて、世界中で多岐にわたる活動を展開してきました。

2025年のバードライフ東京の活動は、アジア、アフリカ、南アメリカを含む世界14ヵ国に広がりました。特にブラジルでは、経団連自然保護基金のご支援をいただき75年前に絶滅したと思われていたアオメヒメバトの人口繁殖に世界で初めて成功しました。また、国内では、宮城県東松島市において東日本大震災の影響を受けた湿地の基盤整備が終わり、市民の皆さまご参加のもと観察会などのイベントを実施しました。

これからも世界119ヵ国/地域に広がる124のパートナー団体と協力し、生物多様性の保全、国際的な環境問題の解決に尽力してまいります。

2026年1月
バードライフ・インターナショナル東京
代表理事
鈴江恵子

Highlights 2025

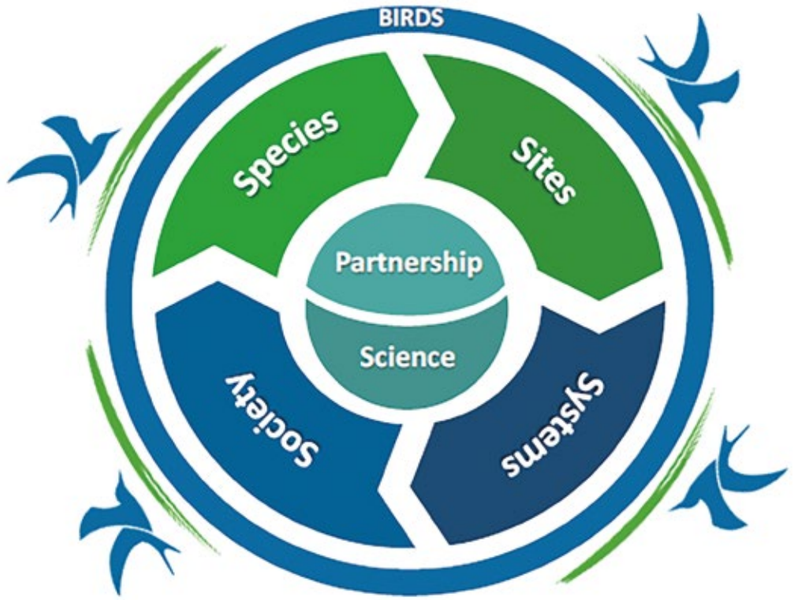
2025年の活動ハイライト

バードライフ東京では、環境保全活動の推進を軸に企業やバードライフ・インターナショナルのパートナー団体との協働を進めることで、2025年は14ヵ国において環境保全活動を展開することができました。

Our Vision

バードライフ・インターナショナルは、鳥と地球上のあらゆる命を守る唯一の国際的パートナーシップです。

私たちは、各地域のニーズに基づく保全活動を行い、地域コミュニティと協力して、持続的な変化を生み出しています。



Our Approach

私たちの使命は、鳥とその生息地、そして地球の生物多様性を守り、自然資源を持続的に活用できる社会を人々とともに築くことです。そのために、4つの重点分野に取り組んでいます。

- 種（Species）：私たちは、すべての鳥の未来を守ることに取り組んでいます。また、IUCNに鳥類のレッドリストを提出し、その状況と保全に関する世界的な権威として活動しています。
- 場所（Sites）：鳥を守るためには生息地の保全が欠かせません。バードライフは、世界の13,000以上の重要自然環境（IBAs）を特定・保全し、生物多様性重要地域（KBAs）パートナーシップの創設メンバーとして、KBA基準の策定に深く関与しています。また、KBA技術作業部会の共同議長を務めています。
- システム（Systems）：生物多様性の減少を引き起こす体系的・構造的な要因を指します。バードライフは持続可能な農業や漁業、再生可能エネルギーの推進に取り組んでいます。私たちは、それらを人と自然のために良い仕組みに変えていこうとしています。
- 社会（Society）： 私たちは、自然を守るため、人々に伝え、学びを広げ、行動を促します。そして、自然が私たちの暮らしに不可欠であることを認め、公平で持続可能な社会を目指します。

数字で見るバードライフ

世界中の鳥を守るため、私たちは確かな変化を生み出しています

2025年の主な成果

全鳥類を対象とした8回目のIUCNレッドリスト更新により
1,360 種が再評価されました。

世界最大の海鳥追跡データベースがアップロードされ対象種は **189** 種、
累計数は約 **7,800** 万ヵ所になりました。

絶滅の危機に瀕したアフリカペンギン保護のために司法から
10 年間の漁業禁止区域の指定を勝ち取りました。

再生可能エネルギー開発が鳥類に与える影響を評価するツール（AVISTEP）の
導入国にオーストラリアが加わり、合計 **9** ヵ国になりました。

バードライフ東京 概要

名　　称	一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京
代表理事	鈴江恵子
理　　事	戸田成郎、村井満、宮崎智子
設　　立	2002年4月　バードライフ・インターナショナルのアジア地域事務所を東京に開設 （任意団体として活動開始）

生態系の保全

野生生物の生態系を守るため、
生息地の保全・整備に取り組んでいます

多くの野鳥が訪れ、植生復元が見られるようになった洲崎湿地

震災で被災した湿地の整備
－日本－

2011年の東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた宮城県東松島市の洲崎湿地の再生を、株式会社アルテジェネシスおよび株式会社ケイ・アンド・ジー商事ご支援のもと進めてきました。

この湿地を人と自然が共生する「ウェットランドパーク」にするために、加藤木道代様のご支援を受け、2025年3月に東松島市や一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団とともに「のびるウェットランドパーク推進協議会」を設立し、実現に向けた取り組みを開始しました。

東松島市で実施したイベントの様子

鳥類保護の説明を聞く参加者たち

油流出が水鳥に及ぼす影響評価
－モーリシャス－

公益信託商船三井モーリシャス支援環境回復保全・国際協力基金のご支援のもと、2020年に発生したWAKASHIO号座礁事故による鳥類への中長期的な影響を評価するため、モーリシャスのパートナー団体であるMauritian Wildlife Foundationと協働で、モニタリング体制を強化しています。2025年はシギ・チドリ類および海鳥の調査や市民への普及活動を行うとともに、モーリシャスの生物多様性保全提言策定に向けて、これまでの活動で蓄積したデータの科学的分析を実施しました。

ICT技術を用いた森林保全活動の促進
－インドネシア－

インドネシア・スマトラ島南部に広がるハラパンの森では、違法伐採や放火などにより森林減少が深刻化しています。2018年より富士通株式会社のご支援を受け、ICTを活用した森林パトロールとモニタリングを実施しています。2025年には、違法行為を監視するカメラトラップと通信タワーを新たに設置し、リアルタイムで森を見守る体制を構築、また、市民向けの情報発信やワークショップを開始し、森林保全の輪を広げました。

設置したカメラトラップ

SPECIES

種の保全

絶滅の危機にある種と
その生息地を保全しています

75年ぶりに再発見されたアオメヒメバト(Blue-eyed Ground Dove)

アオメヒメバトの保全
ーブラジルー

2015年に、絶滅したと考えられていたアオメヒメバトが、75年ぶりにブラジル南東部で再発見されました。アオメヒメバトは、ブラジルの固有種でセラードという特有の生態系に生息しています。バードライフ東京とパートナー団体のSAVE Brasilは、2024年より経団連自然保護基金のご支援を受け、アオメヒメバトの生息地の保全と個体数の増加に取り組んでいます。2025年は、人工繁殖に成功し、飼育個体と野生個体の双方について、繁殖状況を継続的にモニタリングしました。

Parque das Aves鳥類保全センターで生まれた雛

マーケットの様子

ソングバードの保全 ーインドネシアー

インドネシアでは鳴き声コンテストのマーケット拡大により、ソングバードの密猟が深刻化しています。バードライフ東京とパートナー団体のBurung Indonesiaは、経団連自然保護基金のご支援を受け、ジャワ島でソングバードのサンクチュアリ設立に向けた保全活動を推進しています。2025年は、土地利用計画の策定や環境配慮型ビジネスづくりを進めました。さらに東南アジア5ヵ国の調査結果をIUCNと調査対象国政府に提出しました。

ワタリアホウドリのつがい

海鳥と漁業の共存を目指す取り組み
ー日本、インドネシアー

海鳥が直面する深刻な問題の1つが、漁業による混獲(偶発的に漁具にかかること)です。その中でもはえ縄漁では、絶滅危惧種を含むアホウドリ類など多くが犠牲になっています。こうした混獲問題の改善を目指し、2025年はデビッド&ルシール・パッカード財団のご支援のもと、以下3つの活動に取り組みました。1. 国際的なマグロ漁業管理組織の会合への参加や、日本の漁業者、行政、研究者らとの意見交換を行いました。2. 気仙沼の株式会社臼福本店と協働で、混獲回避策の1つであるトリラインの評価プロジェクトを実施しました。3. インドネシアのはえ縄漁業者向け混獲削減普及教育プロジェクトの立ち上げを目指し、パートナー団体であるBurung Indonesiaとともに現地関係者らを対象にワークショップを開催しました。

調査・研究

生物多様性の保全を支援するさまざまな評価ツールを提供し、それらを通じて社会システムの変革を促しています

IBAT活用による生物多様性の情報開示支援

IBAT（生物多様性評価ツール）は、国際機関や企業が事業による生物多様性リスクを把握するためのオンライン評価ツールです。指定地域周辺の保護区、生物多様性重要地域（KBAs）、絶滅危惧種の分布情報を統合的に可視化し、意思決定を支援します。バードライフ・インターナショナルが、国連環境計画の世界自然保全モニタリングセンター（UNEP-WCMC）と国際自然保護連合（IUCN）、コンサベーション・インターナショナル（CI）と共に開発しました。

バードライフが提供する生物多様性評価ツール

IBAT
Integrated Biodiversity Assessment Tool

生物種や重要生息地のデータを駆使し、生物多様性の影響評価を机上で実施するツール。
生物多様性や重要生息地に関する具体的情報を提供します。
TNFD*のLEAPアプローチ*の「L」において分析・評価が可能。

*TNFD (Taskforce for Nature-related Financial Disclosure): 自然資本や生物多様性リスクの評価・開示を促す国際的フレームワーク
* LEAPアプローチ：場所特定、影響評価、優先順位設定を行うTNFDの分析プロセス

AVISTEP
The Avian Sensitivity Tool for Energy Planning

再生可能エネルギー開発が鳥類に与える影響を評価するツール。

PRISM
Practical methods for evaluating the outcomes & Impacts of Small–Medium sized conservation projects

中小規模の環境保全プロジェクトのよりよい目標設定、ならびに成果＆影響評価を、
事前・事後で実施し、環境活動の好循環をつくるための手引き（ツールキット）。

植林活動の経済価値評価
Economic Valuation of Afforestation Activities

植林によってもたらされる経済価値を1本からでも机上で試算評価できるツール。国内限定。

TESSA
Toolkit for Ecosystem Service Site-based Assessment

特定の場所の生態系サービスの経済価値を、既存のデータや聞き取り調査により評価するツール。

地域コミュニティ支援

自然と人との共生社会の実現に向けた取り組みを推進しています

鶴居村で実施された観察会の様子

野鳥保全を通した次世代リーダーの育成 －日本－

2020年よりパシフィック・センチュリー・プレミアム・ディベロップメンツのご支援を受け、宮島沼の会とともに北海道の渡り鳥の重要生息地保全に取り組んでいます。2025年1月は鶴居村で同村と美唄市の子ども湿地交流会を開催しました。交流会では、事前学習を踏まえて、タンチョウを間近で観察し、お互いの活動を報告し合いました。10月はタンチョウの繁殖地の長沼町でも交流会を実施し、湿地の役割や地域の生態系への理解を深めました。バードライフ東京は、今後も未来の環境リーダーとなる子どもたちを支援していきます。

クリーンアップ活動と環境意識向上への取り組み －日本－

2025年9月にダウ・ケミカル日本株式会社のご支援を受け、ラムサール条約登録湿地である千葉県の谷津干潟でクリーンアップ活動を実施しました。社員とご家族、スタッフを含めた約50名が参加し、リヤカー2台分（80kg）のごみとプラスチック片を回収しました。また、海洋プラスチック問題や干潟の役割に関する事前講義も行い、参加者の環境意識向上につながる有意義な取り組みとなりました。

クリーンアップ活動の様子

FUNDRAISING

広がる支援の輪

バードライフの調査研究や世界中の自然保護活動を支援するために、チャリティーイベントを開催しています

東京ガラの様子

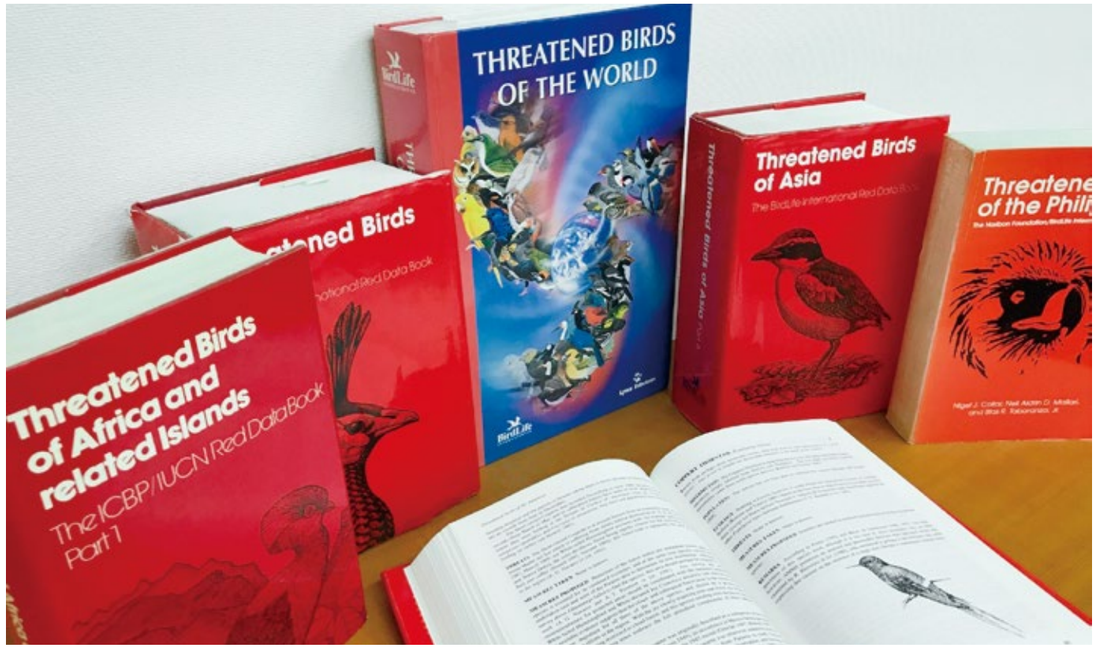
ガラ・ディナーの開催

バードライフ東京では、自然保護活動を支えるため、毎年2回ガラ・ディナーを開催しています。2025年の大阪スプリング・ガラには約450名、東京ガラ・ディナーには約550名の方々にご参加いただきました。収益金はBirdLife International Japan Fund for Science基金の拡充をはじめ、インドネシアを含むアジア6ヵ国および、ウクライナやスロバキアにおける絶滅危惧種などの鳥類保護、生息地の保全、環境教育活動などに活用されています。

名誉総裁 高円宮妃久子殿下によるお言葉

バードライフCEO Martin Harperによる乾杯

BirdLife International Japan Fund for Science基金



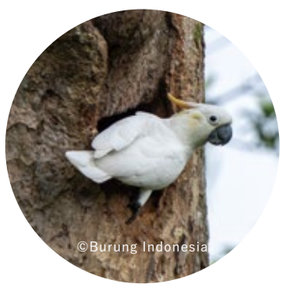
世界の絶滅危惧種を解説したRed Data Book

2019年に高円宮妃久子殿下の名誉総裁ご就任15周年を記念し設立されたBirdlife International Japan Fund for Science基金は、バードライフが世界各地で行う鳥類保護や自然環境保全の基礎となる調査・研究活動を支援しています。

本基金はバードライフ科学部門の研究チームの活動を支え、成果は国際自然保護連合（IUCN）レッドリストとして公表し、各国政府や国際機関における科学的根拠として活用されています。本年も多くの種が再評価され、改善が見られた一方で、依然として多くの鳥類が危機にあることが確認されました。評価には、知見の精度向上に伴う修正も含まれるため、継続的な調査・研究が不可欠です。

本基金には、大阪と東京のガラ・ディナー収益金に加え、ショパールジャパン株式会社をはじめ多くの企業・団体・個人の皆さまからご寄付をいただきました。今後も、本基金を通じ、調査研究活動を支えていきます。

その他の助成先



コキサカオウムの保全
－インドネシア－

ハシボソヨシキリの保全
－ウクライナ－

ベンガルショウノガンの保全
－ネパール－

みなさまからのご支援

バードライフの理念や活動に共感する多くの方々から ご支援をいただきました

株式会社アルテジェネシス 株式会社ケイ・アンド・ジー商事

海外を含め300店舗以上の美容室を展開する株式会社アルテジェネシス並びに関東を中心に130店舗以上の美容室を展開する株式会社ケイ・アンド・ジー商事より、店舗のヘアカラー施術の件数に応じたご寄付をいただきました。ご支援は、東日本大震災で津波被害を受けた宮城県東松島市で湿地を復元・整備する活動に活用しています。

株式会社伊東屋

「鳥を守り自然を守りたい」という思いを込めて作られた伊東屋オリジナルROMEOボールペンには高蒔絵という技法で日本の絶滅危惧種の鳥が描かれており、売上の一部をバードライフの環境保全活動にご寄付いただきました。

ソリマチグループ

1955年の創業以来、60年以上にわたって日本の会計をあらゆる形で支援してきたソリマチグループより、社内の募金活動によるご寄付をいただきました。同グループは、果敢に挑戦するファーストペンギンを目指すべき姿に掲げており、今年で6年目となります。ご支援は、南アフリカのペンギンの保護活動に活用しています。

株式会社フェリシモ

自社企画商品を中心に、ファッションや生活雑貨など幅広い商品を販売する株式会社フェリシモとのコラボレーション商品を販売しています。鳥たちがデザインされた商品の販売から1個につき100円を、野鳥基金としてバードライフの環境保全活動にご寄付いただきました。

BLS（バードライフ・サポーターズ・クラブ）

麻酔医の有志の方々によって結成されたバードライフ・サポーターズ・クラブから、今年も会合でのオークション開催などを通じ、寄付金を集めていただきました。

LGTウェルスマネジメント信託株式会社

リヒテンシュタイン公爵家が所有する国際的なプライベートバンキングおよびアセットマネジメントグループであるLGTの日本法人であるLGTウェルスマネジメント信託株式会社より、ご寄付をいただきました。同社は、サステナビリティを重視しており、バードライフの科学的な調査・研究活動を2022年よりご支援いただいています。

公益財団法人全日本弓道連盟

公益財団法人全日本弓道連盟は、弓道の矢に鳥の羽根が使われていることから、鳥類の保護に関心を寄せ、バードライフの科学的な調査・研究活動に2021年より5年間ご支援をいただきました。

Yahoo!ネット募金

Yahoo!ネット募金では、バードライフ東京の運営サポートの他に、ヘラシギ、ケープペンギン、オオヅル、ブラジルの野鳥、インドネシアの森を守る活動と、5つのプロジェクトページを開設し、ご支援をいただいています。

土井春彦さま

社会起業家として若手支援の活動や世界のさまざまな課題解決を支援されている土井春彦さまより、多額のご寄付をいただきました。全額を世界100ヵ国以上からバードライフ関係者が集まる2026年の大会運営進行費に充当いたします。

法人賛助会員・個人会員

バードライフ東京には、企業や団体による法人賛助会員制度や、個人で活動を支援していただく個人会員制度があります。その他にも、絶滅危惧種の保全活動に里親として関わっていただくレア・バード・クラブ会員制度があります（50音順・敬称略）。

法人賛助会員

2025年の法人賛助会員は、以下の通りです。

- 株式会社アルテジェネシス
- アルファー食品株式会社
- 出雲大社
- 出雲大社文化事業団
- 株式会社ケイ・アンド・ジー商事
- 高麗神社
- 高麗若光の会
- 寒川神社
- 大本山總持寺
- 株式会社日本触媒
- 伏見稲荷大社
- 北海道神宮
- 真清田神社

個人会員（Friends of BirdLife）

個人会員制度では5,000円を1口（1年間）として寄付を募っています。個人会員の方からのご支援はプロジェクト活動費や団体の運営のために活用させていただきます。振込の他、カード決済による会員の自動継続が可能です。

その他のご支援

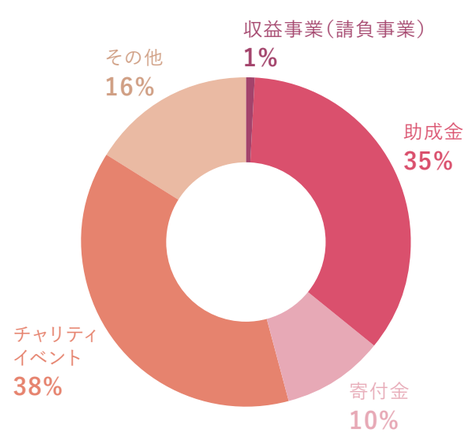
- 株式会社ワンステップ
- 東友会関東支部ボランティア部会

収支報告（1～12月）

※2025年12月末日現在の見込（会計監査前）

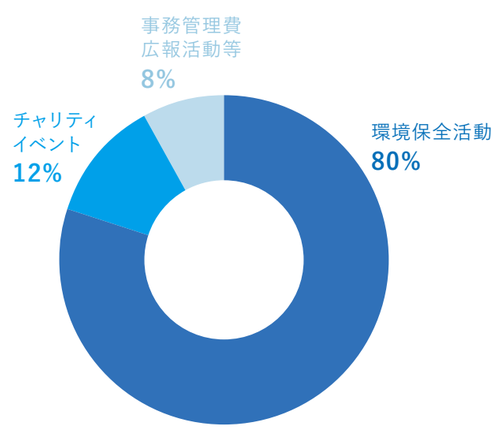
Income

収入
432,700,934円



Expenditure

支出
432,700,934円



Together we are BirdLife International
Partnership for nature and people

一般社団法人

バードライフ・インターナショナル東京

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-13-1 ユニゾ蛎殻町北島ビル1階

TEL：03-6206-2941　FAX：03-6206-2942

https://tokyo.birdlife.org